



東京2025デフリンピック 大会規模（計画額）について

一般財団法人全日本ろうあ連盟
東京都
公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

東京2025デフリンピック 大会規模（計画額）の取りまとめについて

- デフリンピックは、デフスポーツへの理解を広げ、障害の有無に関わらず共にスポーツを楽しみ、共生社会の実現に寄与する意義を有した大会である。
- 東京大会は日本で初めての開催であるとともに、1924年にパリで第1回デフリンピックが開催されてから100周年となる歴史に残る大会である。
- また、東京大会は、70～80か国・地域から約3,000人も選手が集まる、デフアスリートの最高峰の国際総合スポーツ競技大会でもある。
- デフリンピックへの出場は、デフアスリートの最大の誇りであるとともに、ろう者がデフアスリートの活躍を期待し、大きな希望を抱く。さらには、デフアスリートの活躍を社会全体で応援する。こうした「開催基本計画」の考え方をもとに、大会の成功や大会後のレガシーの創出に向け、大会開催に必要な計画額を取りまとめた。
- 大会エンブレムのコンセプトのとおり、人々の「輪」が繋がり、新たな未来の花が開いていくことで、大会を通じて全ての人が輝くインクルーシブな街・東京の実現に貢献していく。

計画額（概算）**（支出）**

項目	金額
仮設等	5億円
輸送等	15億円
オペレーション	70億円
管理・広報	30億円
予備費	10億円
計	130億円

東京2025デフリンピック 支出について

この大会を「シンプルで心に残る大会」とする¹とともに、共生社会の実現につなげていくよう必要な経費を精査のうえ、算定

項目	金額	概要（主な具体例）
仮設等	5億円	・ 仮設費（競技会場内における更衣室やドーピング検査に必要な場所等の仮設整備 など）
輸送等	15億円	・ バス輸送（来日する選手団の競技会場までの輸送にかかる交通手段の用意 など） ・ 警備費（会場における選手等の動線管理、観客の安全のため警備・誘導の実施 など）
オペレーション	70億円	・ 運営（競技審判員の手配、スタートランプなどの情報保障機器の活用、表彰式の実施 など） ・ 選手団及び関係者等の宿泊（各国選手団の宿泊施設の用意・提供 など） ・ ボランティア（ボランティアの募集、活動マニュアル作成 など） ・ 救護（けが人や急病人が出た際の救護サービスの提供 など） ・ 式典（共生社会の実現につながる開会式の実施 など）
管理・広報	30億円	・ 事務局運営費（事務局職員等の人件費、事務室借り上げ経費 など） ・ 広報費（大会概要等を効果的に発信する特設WEBサイトの構築、手話付き解説動画の掲載 など）
予備費	10億円	
計	130億円	

幅広く寄附等をお願いする中で、デフリンピックの魅力を広め、東京大会に対する都民等の関心を高めるとともに、デフスポーツやろう者の文化に対する理解をさらに深めていく。

寄附の概要

- より多くの都民等に参画・支援いただくことで、あらゆる人が協働して大会を作り上げていくとともに、大会開催を好機として多様性を認め合う共生社会への理解を一層促進していく。

名 称 東京2025デフリンピック準備運営寄附金（仮称）

募集方法 (1) 指定口座への振込
(2) クラウドファンディング

募集対象 個人、法人等



協賛の概要

- 本大会に賛同する企業等から協賛の形で資金を集め、事業に活用していく。
- 企業などのサポートを得ることにより、デフリンピックの魅力を広めていく。

上記のほか、国に対しても必要な支援を求めるなど、大会の実施に必要な経費について、関係機関と協議していく。

計画額（概算）**（収入）**

項目	金額
企業協賛、寄附金、各種助成金等	20億円
その他	110億円
計	130億円

- 大会が共生社会づくりを進める重要な契機となることから社会全体で支える大会を実現するため、20億円を目指し、幅広く企業協賛や寄附、各種助成金等を募っていく。
- 大会において、東京の発展や都民の参画の取組を行うことから、引き続き、大会経費の精査を行うことを前提に、都費については、今後、東京都の予算編成過程の中で、調整されるものである。
- 併せて、国による大会への全面的支援を、東京都を通じて要望していく。